

'68

# 会報



THE ROTARY CLUB  
OF TSURUOKA

## 鶴岡ロータリー

第 465 号

1968.8.13 (火) 晴

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひざごや  
② 0707.2838  
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ② 5775

会報はご家族みなでよましましょう

### 四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか  
is it the truth?
2. みんなに公平か  
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか  
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか  
will it be beneficial to all concerned?

### 「参加し、敢行しよう」

6月	地区別順位 70クラブ	48位	会員数 64名	出席率 90.19%	前月順位 54位
----	----------------	-----	------------	---------------	-------------

阿部(公)君、阿部(襄)君、長谷川君、海東君、大竹君、高橋君—鶴岡西RC

#### 出席報告

本日の出席 会 員 数 64名  
出 席 数 47名  
出 席 率 73.44%

欠 席 者 阿部(公)君、安藤君、千葉君  
長谷川君、平田(圭)君、嶺岸君、三井(徹)君、松田君、大竹君、大野君、佐藤(伊)君、黒谷君、津田君、辻君、篠原君、阿宗君、白井君

前回の出席 前回出席率 79.69%  
修正出席数 59名  
確定出席率 92.19%

マークアップ 金井君—山形西RC  
黒谷君—酒田東RC

ビジター 五十嵐卓三君、帯谷義雄君  
—鶴岡西RC

ソング 奉仕の理想 リーダー 三井君

司 会 会長 石黒慶之助君

☆鶴岡西高に交換学生がこの20日羽田に到着いたします。次会西クラブ会長さんから詳しいことを報告ねがいます。

☆9月29日西クラブのホストで、インターシイター、フォーラムがあります。9月30日10月1日がガバナーの公式訪問、更に10月5日・6日、3地区の連合大会が仙台であります。私も、西クラブの要請により、次会、16日の例会に出欠して当クラブの考え方等を申し上げて、意見の交換をしたいと思えます。

## ☆SAA

従来の300円の食費を50円値上げして、350円の食費になりました。

## ☆出席委員会（小花君）

仙台に於ける、連合年次大会に会員の皆様多数の参加を願い、私共ロータリーの会員として、地区大会が一番大きい大会でこの大会に出て、ロータリーを身につけ、多くの人と交換し親睦をうる、絶好の機会でありますので、是非多数参加願います。

## ☆交換学生について 小花君

こちらから此の度参ります五十嵐みとさんが、渡米の手続も16日までには県庁まで書類が来ることになっております。今月末頃には出発出来ると思います。向こうの学校は9月4日から開校になっておりますし、向こうから来る学生は、644地区のシカゴの南にあります。モネという町のお嬢さんで、15才になります。お父さんは、建築技師で、本人は、学校の成績もよく、ラテン語を勉強しており運動は水泳もやっているようです。20日羽田に着くことになっていきますし、西校も8月下旬に開校になりますので、一番目にホストになるホームは西校の英語の阿部先生宅に2、3ヶ月お世話になることになっております。

## 卓 話 赤川農業水利事業の概要

青竜寺川土地改良区

参事 阿部慶治郎氏

事業地区は、山形県鶴岡市を中心として赤川の両岸に展開する面積13,000ヘクタールの米作地域で、俗に庄内平野と称される地域の大部分を占めている。

この地域田圃のかんがい用水の主水源は赤川に求め、現在左右両岸より9つの井堰（取入口及び水路）によって用水を確保しており歴史は3百年乃至4百年前に人工によって掘

削された河川であります。

処が昭和初期に行なわれた赤川新川の開きく（赤川は最上川の支流であったが、日本海に直接開きくした工事）と、昭和31年、33年に完成した赤川支流の大鳥川、梵字川の2つのダム築造（多目的ダムと発電ダム）による影響及び砂利採掘によって赤川の河床が年々低下が見られ、かんがい必要水量の取入が困難になってきました。それにまた従来の取入口の施設が老朽化によることと、また地域内の水利状況は、原始的であって分水の不合理用水路の断面狭少、又用排水兼用水路等がめだち、これによって、末端水路の不整備、農地としての土地条件が不良（主として湿田等）が大部分を占めている現状であります。

又赤川水系は、昔赤川乱流時代の沖積層であり下層土は砂礫又は泥炭層が多く地下水が極めて高い為に稲の根が横に這っており収穫量は4石が頭打になっているので、この壁を破るには地下水を全面的に60厘乃至1米低下させる事が肝要であります。

再い条件の良くなった事は、主水源である赤川の流量が増加した事である。これは昭和9年に大鳥川の最上流にある大鳥湖（自然湖）に制水門扉を築造したこと、又昭和31年に山形県営事業として完成した、荒沢ダム（治水、農業用水発電の多目的ダム）その他発電開発にとまなう水利協定によって、ほぼ満足するようになっていく。ダム築造前は赤川本川に水が不足で、全区域に必要最少限度の水量毎秒25立米にかかわらず毎秒10立米以下に低下した渇水が、たびたびあって、赤川水系の分水に紛争が起きた事もあった。

以上の現状である私達の郷土の発展的に開発する計画で赤川農業水利事業を着手（昭和40年）したのであります。総事業費、国、県、団体（土地改良区）の3者營で200億を投じ10ヶ年継続事業で実施しており、わが国でも画期的なもの1つになっております。

それでは次にこの事業計画目的を述べてみよう。

#### 1. かんがい用水確保と末端用水供給

従来9つの井堰の内8つを統合し(朝日村熊出地点)いわゆる赤川合口頭首工(取入口)を築造し、取入水量最大毎秒46立米、常時25立米の水量を確保する。この地点の河床は低下しないよう固定する。この取れた小量を赤川水系全地域に公平に供給する為に用水系統を新に確立し、適正な用水配分計画を樹立しこれを実施するには、新に水路を開きくする必要から田圃の圃場整備に折込で末端水路まで削さくする。

#### 2. 赤川合口事業は治水事業にも大いに貢献

統合する8つの井堰は、従来右岸に3つ、左岸に5つに別れ各々自然取入していた、しかも羽黒橋上流一熊出地点迄で延長10料区間に位置し、この間は、用水取入の為の床止工又は取入口に流れが向くように水制工等を施している為に、赤川堤防左右岸に河が極端によっており堤防護岸が洗削され、破堤する恐れある水衝部が4ヶ所もあり危険な状態であります。

これを統合することによって熊出地点よりの赤川下流は治水だけの計画で河床勾配を修正し河心(河の流れる中心)を統制し水衝部を無くすることが可能となったことである。赤川は計画洪水量毎秒2,200立米が流下しても安全なる対策は満全を期さねばならない。

#### 3. 農作物の増収を期すため用水、排水を完全分離(乾田化)

前にも述べたように地下水を低下させるように、専用排水路を各田圃より直接排水されるように堀削し、田面高より排水路床までの深さを70釐乃至1米30釐に計画して地下水を田面より60釐乃至1米まで低下させ、稲の根を深く張るようにする。反収5石以上は期待される。地下水が低ると、それだけに用水量が増加するが充分確保ができる。それから用

水路の水位は田面より高い(15釐以上)所になければ理想としないので、3面コンクリート水路とする。従来の水路はほとんど素堀の為地下浸透や漏水等でロスが多かった。

#### 4. 農作物のコストダウンに

田圃の圃物を30アール(長辺100米を標準)にするため全面的に大規模県営圃物整備事業(用排水路、市町村道、農道整備も含む)として8,000ヘクタールの大面積を実施する。(昭和43年度着手、52年度完了予定)

現在の状態は農家が耕作している耕地が平均8ヶ所に分類しており、又田圃の区画が狭少不整形、用排水兼用、水路が大部分で1部には溢流湛水がある。農道は曲折が多く巾員せまく等々で、農作業上多大な無駄労力と浪費となっている。ここに圃場を敷備し、用水を円滑に配分し、掛水施設を完備し乾田化を図り大型農業機械化を導入して、労力を極端に節減するとともに、土地の高度利用、耕地の集団化による協業化、営農集団の組織を強化して、革新的な農作技術の導入と土地の高度利用による経営の拡大を図り、近代化農業経営を樹立しています。

これは、現在米1石生産費が1万円以上を4千円乃至5千円程度に抑えて実農家所得の向上を計ると同じに、米価の安定に寄与する考え方である。現今日本の農作物の価格は、国際水準の2倍になっており、わが国民はそれだけ所得より食糧に負担をかけておる事は物価値上げの起因にもなっており、文化生活向上に逆行していることであって、わが国経済力をそれだけ低下させておることは、誠に憂慮すべきである。国あげて国民の食糧を確保すると同時に、徹底した基盤整備事業を実施し、農作物のコストダウンに政策を注ぐべきであらう。今わが郷土は、農業に対等できるよう事業が実施しておるのであります。

#### 5. 今後の課題

理想的な計画で実施している基盤整備事業

が完成したら、それを又理想的に利用し、充分効果を上げることに傾注しなければならない。それには第1に部落単位の協業化、企業としての農家経営に大改革することである。そして近く将来には農協単位に結集して会社経営になるべきであろう。そして農作業を大型機械化し、機械に合わせた農作業体形と労力配分を計画的に均衡を計り、一年中楽な労力で技術を延ばすことを考慮しなければなりません。

協業化の組織強化によって大型機械と近代化施設を導入し機械・施設に合せた作付品種の統一、肥培管理の合理化（早生、中生、晩生の作付配分を合理化）して、労力配分計画も合理化にする。そして余剰労力の配分計画と関連した総合労力計画を立て、今後消費増大（食生活の向上）する生産物（蔬菜温室ハウスによる速成栽培、高級果物、タンパク質の畜産等）に力を入れることによって価格を安くし、所得を上げることができる。又、流通機構の改善として国道112号線の改修工事は、圃場整備完了時に完成する予定（山形2時間、仙台4時間、東京7～6時間で達する予定）この国道を夜間トラック輸送で販路を展開させる。消費増大の農産物（品種、品質時期、数量等を改良）を大手メーカー、大都市市場等と農協中心に栽培委託契約、協業組合と連けいをとって生産計画をたてるのが肝要であろう。道は明るい見通しで開けてある。これを一歩々々努力し、前進するだけである。

以上の事業概要であります。わが郷土に2百億の事業費を投ずることは、当地方全般の経済が潤うことでもあり、建設業者は勿論資材業者、金融会社等郷土の皆様には是非協力して戴きたく御願ひ申し上げます。

この意味からも、鶴岡ロータリークラブの皆様よりは是非共この大事業に御援助を得たく心から御願ひ申し上げる次第であります。

## 幹事報告 三井 健君

- 会報到着 能代RC、猪苗代RC、新庄RC、郡山RC、米沢西RC、村山RC、天童RC、仁賀保RC
- 例会変更 酒田RC  
8月21日、午後6時  
於 相馬屋
- チャーターナイト案内 岐阜県本巣RC
- 福島北RCより（5年の歩み）会誌寄贈
- 地区連合年次大会案内  
10月5日6日 仙台東北大学記念講堂

## スマイル

今間壯太郎君（柏戸後援会副会長）

五十嵐八郎君（柏戸実行委員長）

去る10日郷土出身横綱柏戸及びその一行が後援会の招請により、鶴岡公園に於て華々しく興行した。特に今回は、柏戸の婚約者せつ子さんも来鶴し、非常に盛況でありました。地方開発のため誠におめでとうございました。

## 献立

サンドイッチ、盛合せーエビフライ  
トンカツ、グラタン